

日本は変わるか



医療保険改革

ポラロイド人気

Newsweek

ニュースウィーク日本版

特別定価 450円

<http://newsweekjapan.jp>

沈みゆく日本

成長戦略なき

空っぽのマニフェスト

ビジョンなき政権選択で

アジアの大国の座を

守り抜けるのか

環境保護がドイツを滅ぼす

過剰なテクノロジー敵視で

技術大国の地位は風前の灯に

スー・チー邸侵入犯が明かした

「ミャンマー政府の陰謀だ」

医療保険制度パニック

オバマの「正しい改革」に
アメリカ人が猛反対する理由

2009

9・2



『ジェームズ&アリーシャ』

Picture Power

PHOTOGRAPHS BY TONY FOHSE

撮影:トニー・フォウス 1954年、オタワ生まれ。19歳から写真を撮り続けているが、40歳まで有名ケーキ店パティシエとして勤めていた異色の経歴の持ち主



『ジュニア』

Addictive Neighbors

薬物と共に生きる 暗き街角の住人

PHOTOGRAPHS BY TONY FOUHSE

カ

ナダの首都オタワ。
その街中に、混沌
と無秩序がはびこ
る一角が存在する。

そこはテロリストの巣窟ではな
い。住人は爆弾を仕掛けも、政府
や社会システムの転覆を狙いもし
ない。彼らが闘いを挑んでいるの
は、自らの肉体や精神だ。苦しい
現実から逃れようともがき、彼ら
は武器を手にする——コカインと
いう名の強力な武器を。

こうしたコカイン常用者が、一
般の市民から見れば理解し難く、
受け入れ難い存在であるのはテロ
リストと同じだ。一見すると、そ
こには醜さと争いと墮落しか存在
しないようにも思える。多くの市
民は、常用者が町から一掃される

ことを望んでいる。

「だが、ここには別の感情や力強
さもある」と、写真家のトニー・
フォウスは言う。彼は07年から何
度もこの街を訪れてコカイン常用
者たちの姿を写真に収めてきた。

そこで彼が目にしたのは住人の
コミュニティと、彼らの間にあ
る絆だ。彼らは互いに助け合い、
痛みを分かち合って暮らしている。

ここで撮られたフォウスの作品
は、被写体である常用者の名前が
そのまま作品名になっている。ま
るで彼らが、どこにでもいる普通
の人間と変わらないという事実を
突き付けているようだ。

フォウスは言う。「ここには想
像性が、友情が、人間性がある。
ここにいるのは、人間だ」

N